

訓練センター組合員意見交換会を開催！



5月24日訓練センター組合員による意見交換会を東京地本会議室で行いました。冒頭田中副部長から、きかく部会の活動として訓練センター、指令員、JEPS など事務業務の3つの職種において系統別意見交換会を実施してきた。訓練センターを皮切りに各意見交換会へ広がりを見せ、訓練センター意見交換会は今回で6回目を迎える。この意見を最終的には政策提言に結びつけていきたい。運転業務の中で不安を払拭して業務するためにも訓練センターの訓練がある。中々訓練生を送り出すことができない職場現実

を考えたときに、我々として何ができるのかと議論し、事故を未然に防ぐものを創って生きたい。事故の目を摘み取るために東労組が職場の声に基づいて会社と議論していく事が重要。今日は意見を共有しながら今後のきかく部会の運動に結びつけていきたいと挨拶を受けました。

中央本部からは加藤執行委員長、熊澤業務担当部長が来賓として参加されました。熊澤業務担当部長からは5月7日に会社から『JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな働き方について』提案を受け、会社側の説明だけで 1 時間半、質問含めると約3時間議論してきた。職場では給料が上がるのか下がるのかといった賃金制度の改正について多くの意見が出されている。我々の将来の生活に直結する内容なので、未加入者含めて率直な意見として受け止めていく。今回の施策は社員間の分断が目指されているのではないかと危機感がある。会社の狙い、我々の働き方、生活がどのように変化していくのか議論を深めて頂きたい。国鉄時代の残滓と言う言葉が出たが、国鉄改革の否定、この間積み上げてきた労使議論を形骸化し、一掃していく意味が込められているのではないかと挨拶を受けました。

主な意見

- ・訓練が乗務員コースとなり、講師も運転士・車掌と訓練出来るように進めている。
- ・訓練生の欠席も昨年より減少してきた。
- ・本人通達の2年程度の訓練スパンは乗務されている管理者含めて守られているか不透明な部分がある。
- ・東中野事故を契機に訓練センターは設立された経緯を考えると、安全に関わる教育はやり続けなければいけない。
- ・副長の業務都合により欠席が多い。
- ・統括センターが発足となり、誰が乗務者なのか把握されていない為、来所持に乗務者と気づくケースがある。
- ・転てつ器の仕組みを理解して頂こうと新たな訓練を始めた。
- ・乗務員、駅含めて列車を止める基本的な部分の訓練を実施している。
- ・過去に考えられない乗務員の事象がある。訓練センターの訓練は重要だと感じている。
- ・現車が無い訓練センターはシミュレータメインで訓練内容を考えないと机上のみとなる。
- ・訓練センターの訓練は運転台に1人の為、緊張感がある。
- ・新しい訓練車を搬入する計画もなく、将来的に現車を使用するのか不安だ。
- ・訓練センターの訓練は事象を起こした乗務員を入所させるなど責任追及の場にはいけない。

JR 東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな働き方について

- ・組織再編施策で訓練生の入所は現行の支社毎か、事業本部毎になるのか？
- ・各支社の訓練センターはどこ事業本部所属になるのか。
- ・区分分けの評価につながる事を恐れ、事象を隠す心理が生まれ、正しく報告する文化を阻害するのではないか。
- ・区分付けで乗務員の評価をするのは難しいのではないか。
- ・東労組が結んだ今までの労働協約を一掃したいことが目的ではないか。
- ・賃金が上がっても生活がどうなるかは別の問題。
- ・施策内容で安全が全く聞こえてこない。安全をどのように残していくかがポイント。

東中野事故を忘れず、新たな人事賃金制度・組織再編施策に対しても、今までの失敗から学ぶ訓練生の為の訓練を継続し、我々から安全風土を創りだそう！

次回11月8日(土)
開催予定